

## 別表A

研修歯科医評価票の評価項目レベル3以上であること

## A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

研修目標	内 容	研修方法	指導歯科医評価
1. 社会的使命と公衆衛生への寄与	社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	オリエンテーション セミナー ビデオ 臨床研修	研修歯科医評価票
2. 利他的な態度	患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともにQOLに配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。		
3. 人間性の尊重	患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。		
4. 自らを高める姿勢	自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。		

【研修目標】	内 容	研修方法	指導歯科医評価
1. 医学・医療における倫理性	診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。 ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。 ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。 ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。 ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。 ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	オリエンテーション セミナー ビデオ 臨床研修	研修歯科医評価票
2. 歯科医療の質と安全の管理	患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。 ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。 ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。 ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。 ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。 ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。		
3. 医学知識と問題対応能力	最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。 ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。 ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。 ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。 ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。		
4. 診療技能と患者ケア	臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。 ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。 ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。 ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。 ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。		
5. コミュニケーション能力	患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。 ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。 ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。 ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。		
6. チーム医療の実践	医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。 ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。 ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。 ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。		

【研修目標】	内 容	研修方法	指導歯科医評価
7. 社会における歯科医療の実践	<p>医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。</p> <p>① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。</p> <p>② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。</p> <p>③ 予防医療・保健・健康増進に努める。</p> <p>④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。</p> <p>⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。</p>		
8. 科学的探究	<p>医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。</p> <p>① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。</p> <p>② 科学的研究方法を理解し、活用する。</p> <p>③ 臨床研究や治験の意義を理解する。</p>		
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	<p>医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。</p> <p>① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。</p> <p>② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。</p> <p>③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。</p>		

別表C-1

基本的診療能力

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

全研修目標の項目毎に、「到達目標を達成するために必要な症例数」を経験すること

研修目標	内 容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
初診患者に対し、①から⑥までを一連で実施する。		オリエン テーション セミナー  ビデオ  臨床研修  症例検討会   計	30	18	研修記録ノー ト、研修歯科医 評価表
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	・ 接遇  ・ 医療面接				
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。	・ 身体の観察、問診の取り方				
③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。	・ 検査結果の評価				
④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。	・ 鑑別診断				
⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	・ 治療法選択  ・ 治療計画作成				
⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。	・ 治療計画書、手術、検査説明書に沿った治療説明 ・ 同意の確認、インフォームド Consent ・ 処方した薬剤についての説明				
			30	18	

(2) 基本的臨床技能

研修目標	内 容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	・う蝕の予防と管理（口腔衛生指導、フッ素塗布、予防填塞） ・歯周病の予防と管理（ブラッシング指導）	オリエンテーション 臨床研修	50	30	研修記録ノート
			20	12	
②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。 a. 歯の硬組織疾患  b. 歯髄疾患 c. 歯周病 d. 口腔外科疾患  e. 歯質と歯の欠損  f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	・窩洞形成 ・充填 ・抜髄処置、感染根管処置 ・歯周初期治療 ・抜歯 ・難抜歯 ・埋伏歯抜歯 ・顎関節症の治療 ・静脈路確保、静脈注射 ・歯冠補綴処置 ・欠損補綴治療 ・口腔機能発達不全症の管理 ・口腔機能低下症の管理	症例検討会  講演会 セミナー			
			10	6	
			10	6	
			5	3	
			10	6	
			30	18	
			10	6	
			10	6	
			5	3	
			30	18	
			10	6	
			10	6	
			1	1	
			5	3	
			10	6	
			10	6	
			5	3	
			5	3	
③ 基本的な応急処置を実践する。	・急性症状に対する応急処置（薬物による鎮痛、消炎） ・う蝕の処置（仮封、鋭縁削合） ・象牙質知覚過敏症の処置 ・急性歯髄炎の処置 ・歯肉膿瘍、歯周膿瘍の処置 ・急性化膿性根尖性歯周炎の処置 ・止血法、結紮法 ・外傷歯の処置（歯牙破折、脱臼） ・歯槽骨骨折の非観血的処置 ・顎顔面骨折の非観血的処置 ・顎内顎間固定 ・顎関節症の治療 ・顎関節脱臼の整復 ・補綴物脱離, 破折の処置、修理				
④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	・バイタルチェック				
			20	12	

研修目標	内 容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。	・POS(problem oriented system)に沿ったカルテ記載  ・処方箋・各種指示書の発行 ・病態写真撮影 ・手術記録、入院サマリ記載 ・診断書、死亡診断書、証明書発行 ・剖検所見記録		200	120	
			30	18	
			30	18	
			30	18	
			*	*	
			*	*	
⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	・医療事故防止に留意する  ・医療安全管理指針を理解しマニュアルにそった対応ができる  ・アクシデント、インシデント報告	オリエン テーション 講演会・セ ミナー ビデオ 臨床研修	*2年間で各4回の安全管理研修会、感染防止対策研修会に出席	*2年間で各4回の安全管理研修会、感染防止対策研修会に出席	研修記録ノート、ポートフォリオ
			10	6	
			計		

(3) 患者管理

研修目標	内 容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	・ 歯科診療に対する他科処方薬の影響評価、対応  ・ 歯科診療に対する全身疾患のリスク評価と対応	オリエン テーション	50	30	研修記録ノート
		臨床研修	50	30	
② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	・ 問診  ・ かかりつけ医、紹介医への問い合わせ、院内対診	講演会	100	60	
		セミナー	30	18	
③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	・ バイタルサイン（脈拍，血圧，体温，呼吸，意識）の測定、評価		50	30	
④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	・ ショック時の救急処置  ・ 歯科診療時の全身的合併症への対応  ・ 一次救命処置 BLS(Basic Life Support)  ・ 気道確保，マスクによる酸素吸入 ・ アンビュバックによる人工呼吸 ・ 心臓マッサージ ・ 基本的な救急薬剤の使用		*	*	
			*	*	
			*	*	
			*	*	
			*	*	
			*	*	
			*	*	
⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。	・ 術前術後、入院中の検査（血液検査、尿検査、生化学検査、免疫学的検査，感染症（HBV, HCV, HIV, Wa氏）、血型、出血凝固検査、胸部単純X線写真検査、心電図、肺機能検査、腎機能検査など）  ・ 検査結果の評価	10	6		
		10	6		
計			300	180	

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

研修目標	内容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者 に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な 予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	・ 妊娠期の患者に対する歯科疾患管理の指導を行う	臨床研修	3	1	研修記録ノート
	・ 乳幼児期の患者に対する歯科疾患管理の指導を行う		10	6	
	・ 学齢期の患者に対する歯科疾患管理の指導を行う		10	6	
	・ 成人期の患者に対する歯科疾患管理の指導を行う		20	12	
	・ 高齢期の患者に対する歯科疾患管理の指導を行う		20	12	
② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を 実践する。	・ 妊娠期の患者に対する歯科治療を行う	臨床研修	3	1	
	・ 乳幼児期の患者に対する歯科治療を行う		10	6	
	・ 学齢期の患者に対する歯科治療を行う		10	6	
	・ 成人期の患者に対する歯科治療を行う		50	30	
	・ 高齢期の患者に対する歯科治療を行う		50	30	
	・ 全身疾患急性期の患者に対する歯科治療を行う		50	30	
	・ 全身疾患回復期の患者に対する歯科治療を行う		20	12	
	・ 全身疾患慢性期の患者に対する歯科治療を行う		20	12	
	・ 終末期の患者に対する歯科治療を行う		10	6	
計			286	170	



別表C-2

歯科医療に関連する連携と制度の理解

(1) 歯科専門職間の連携

研修目標	内容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	・ 歯科衛生士との連携  ・ 指示出し、伝達、実施確認	オリエン テーション	50	30	研修記録ノート、研修歯科医 評価表
			50	30	
② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	・ 歯科技工士との連携  ・ 院内依頼票作製、返事の記載	臨床研修  カンファレンス	50	30	
			50	30	
③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	・ 医療チーム内での適切なコミュニケーション  ・ 他の医療従事者との連携  ・ 院内依頼票作製、返事の記載  ・ 指示出し、伝達、実施確認  ・ 他科の医師との連携  ・ カンファレンスへの参加		50	30	
			50	30	
			50	30	
			50	30	
			50	30	
			50	30	
			参加30(回)	参加18(回)	
計			450	270	

(2) 多職種連携、地域医療

研修目標	内容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	・診療情報提供書の作成、地域勉強会への参加	勉強会	*	*	研修記録ノート、研修歯科医 評価表
② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	・紹介医への経過報告書作成  ・他の医療機関への診療情報提供	オリエンテーション 臨床研修 カンファレンス	50	30	
			50	30	
③がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。	・他科病棟へ往診に行き、口腔管理を行う ・多職種連携カンファレンスに参加する	オリエンテーション  臨床研修 カンファレンス	50	30	
④歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。	・他科病棟へ往診に行き、口腔管理を行う ・多職種連携カンファレンスに参加する ・摂食嚥下障害の評価とリハビリテーションを実施する ・周術期口腔管理を実施する		50	30	
計			200	120	

(3) 地域保健

研修目標	内 容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	・ 紹介医への経過報告書作成  ・ 他の医療機関への診療情報提供	オリエン テーション	50	30	研修記録ノ ート、研修歯科医 評価表
		セミナー	50	30	
② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	・ 地域勉強会への参加	勉強会	*	*	
計			100	60	

（４）歯科医療提供に関連する制度の理解

研修目標	内容	研修方法	経験することを 目標とする症例数	到達目標を達成するために 必要な症例数	指導歯科医評価
① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規 及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	・ 関連法規に関する講義への参加	オリエン テーション	*	*	研修記録ノート
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	・ 診療録記載、レセプト点検  ・ 病名、適応症確認	オリエン テーション	50	30	
		臨床研修 講演会	50	30	
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	・ 関連法規に関する講義への参加			*	
計 合計			100 2071	60 1243	

別表C-3-(1)  
研修方法

オリエンテーション	電子カルテ、オーダーリング、BLS、メディカルラボなど
講演会	医療安全管理、院内感染対策、医療事故防止など
セミナー	接遇、医療面接など
視聴覚センタービデオ	接遇、医療面接、医療安全管理、院内感染対策、救急医療、心肺蘇生など
カンファレンス	病理、摂食嚥下、スピーチなど
臨床研修	外来、病棟、手術、麻酔科研修
勉強会・抄読会	
症例検討会	
学会発表	

別表C-3-(2)  
評価方法

研修記録ノート	指導歯科医のチェックとフィードバックを受け、症例数をカウントする
ポートフォリオ	月1回作成し、プログラム責任者・副プログラム責任者のフィードバックを受ける
診療レポート	2年間の研修期間中に印象に残った1症例について、論文形式のレポートを作成し、研修管理委員会で審査する
カルテ記載チェック	診療日ごとに指導歯科医のチェックとフィードバックを受ける
同意書チェック	同意書を作成するごとに、指導歯科医のチェックとフィードバックを受ける
処方箋チェック	処方箋を発行するごとに、指導歯科医のチェックとフィードバックを受ける
手術・麻酔記録チェック	手術、麻酔を担当するごとに指導歯科医のチェックとフィードバックを受ける
退院サマリチェック	担当症例の退院時にサマリを作成し、指導歯科医のチェックとフィードバックを受ける
抄読会発表	各タームごとに1回を目標に抄読会の発表を担当し、プログラム責任者・副プログラム責任者による評価を受ける
学会発表	2年間の研修期間中に学会発表を行い、プログラム責任者・副プログラム責任者による評価を受ける。学会発表を行ったものは診療レポートを免除する